

福田富男業績集

注：青線枠が有る項目はWEB上にリンクが有ります。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 岡山県大百科事典	共著	昭 55 . 1	山陽新聞社	編者 大熊立治、神野力他 7名 著者 福田富男、寺島朴、松村真作、村上豊他多数 海産魚類執筆を担当し、アイナメ、イシダイ、マアジ、マサバ他 3 5 項目を執筆した。 岡山県民他の資料収集、勉学、教育に多大の貢献をした。
2 Intestinal Anisakiasis in Japan	共著	平 2	Springer-Verlag P. 265	編者 Hajime Ishikura, Kokichi Kikuchi 著者 Y.Tongu, T. Fukuda, T. Aji pp.57 ~ 60, pp.73 ~ 79 日本におけるアニサキスの実態およびアニサキス症の診断に効果的な方法開発の知見 瀬戸内海におけるアニサキス科線虫の分布の解明、臨床患者から摘出された虫体の分類査定などに寄与する知見を得、多大の貢献をした。
3 岡山県の自然と環境問題	共著	平 16 . 8	株式会社大学教育出版	編者 岡山ユネスコ協会 著者 福田富男、藤沢邦康、鳥井正也、尾田正他 17名 分担部分 第 2 章 2 - 5 海共同執筆、95 ~ 116 頁 岡山県の海について概況、自然環境、環境の変化、海洋生物環境の変化などについて記述し、関係者の勉学、教育に多大の貢献をした。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文)				
1 Surface Ultrastructure of Larval Anisakidae (Nematoda: Ascaridoidea) and Its Identification by Mensuration	共著	昭 63 . 4 平元 . 9	Acta Medica Okayama 42 (2) 岡山大学	Tomio Fukuda, Toshiki Aji, Yasumasa Tongu pp.105 ~ 116 分担部分 実験、記述全般 臨床患者から摘出されたアニサキス虫体の部分的な断片から虫体を分類する知見を得る為にこの研究を実施した。主に頭部、尾部の微細構造、横縞の間隔測定を通して虫体

(博士学位論文)				を分類査定する方法を明らかにし関係方面に多大の貢献をした。
2 瀬戸内海産魚類における Anisakidae 幼線虫の寄生状態について (学位副論文)	共著	昭 57.6	寄生虫学雑誌 第31巻 第3号	福田富男、頓宮康正、安治俊樹、頼 俊雄、他 3名 171~ 176頁 分担部分 「実験、記述全般」 瀬戸内海におけるアニサキスの分布を調査した例はほとんど無いため知見の集積が求められていた。瀬戸内海産魚類 20種 195尾についてアニサキス科幼線虫の分布を明らかにし関係方面の知見集積に多大の貢献をした。
3 腸アニサキス症について - その症例を中心として - (学位副論文)	共著	昭 57.10	岡山医学会雑誌 第94巻 9, 10号	安治俊樹、福田富男、何 黎星、頓宮康正、他 4名 775~ 782頁 分担部分 「資料作成、電顕撮影」 ハマチの刺身により感染し腸閉塞を来した腸アニサキス症について病理学的見地、寄生虫学的見地から検討を加え、関係の知見集積に寄与した。
4 Ultrastructural Changes in the Esophagus, Intestine, and Excretory Organ of Larval Anisakis (Ascaroidea: Nematoda) after Incubation in Artificial Gastric Juice (学位副論文)	共著	平 2.2	Japanese Journal of Parasitology Vol. 39 No. 1	Tomio Fukuda, Yasumasa Tongu, Akira Ishii pp. 1 ~ 6 分担部分 「実験、記述全般」 人体内に進入したアニサキス科幼線虫がどのような機構で筋肉内に移行するかを明らかにするため人工胃液の中で虫体を培養し、その後の虫体内部の諸器官の変化を追跡した。頭部付近に開口する孔に通じる Excretory Organ は蛋白質分解物質を放出し、筋肉移行に利用されていることが示唆され、関係知見の集積に寄与した。
アマモ場造成研究 5 天然モ場におけるアマモの分布と消長	共著	昭 55.5	岡山県水産試験場 事業報告書 昭和 54年度	福田富男、安家重材 147~ 152頁 分担部分 「調査研究、記述全般」 アマモ場の減少に伴い漁業生産の減少が指摘され、諸方面からアマモ場の保護、造成が望まれていた。天然のアマモ場で季節的な消長を追跡し、藻場の増減に種子が大きな役目を果たしていることを明らかにし以後のアマモ場造成研究の基礎となった。

6 陸上水槽におけるアマモ実生育苗法について	共著	昭56.10	栽培漁業技術開発研究 第10巻 第2号	安家重材、福田富男 1~5頁 分担部分 実験、記述全般」 アマモ場造成技術開発の一環として、種子を用いた実生育苗法について、ペーパーポット法を検討し、実用化の目処を得た。
7 アマモ種子の保存方法、処理等が発芽に及ぼす影響について	共著	昭56.10	栽培漁業技術開発研究 第10巻 第2号	福田富男、安家重材 7~13頁 分担部分 実験、記述全般」 アマモ場造成技術開発の一環をして、種子の保存方法、ホルモン処理などの効果を検討した。室外水槽保存法が効果的なことを明らかにし、その後の造成法開発に多大の貢献をした。
8 アマモ場造成に関する研究 - 種子の採集及び保存方法について	共著	昭59.12	栽培漁業技術開発研究 第13巻 第2号	福田富男、安家重材、土屋豊、寺島朴 77~82頁 分担部分 調査、実験、記述全般」 アマモ場造成技術開発の一環として、種子の採集、保存法をまとめて検討し、以後の技術開発に多大の貢献を果たした。
9 アマモ場造成に関する研究 - アマモの成長及び敷砂の変化について	共著	昭61.12	栽培漁業技術開発研究 第15巻 第2号	福田富男、寺島朴 101~114頁 分担部分 調査、記述全般」 実海域におけるアマモ場造成の実証試験を実施した。播種によるアマモ場造成の実用化及び敷砂の効果が確認され、その造成面積の広さからも全国的に高く評価され、その後の国内のアマモ場造成の規範としての地位を築いた。
10 Relation Between Shoot and Seed Distributions of Eelgrass Bed	共著	昭62	Nippon Suisan Gakkaishi	Tomio Fukuda, Yutaka Tsuchiya pp.1755 ~1758 分担部分 調査、記述全般」 実海域の広範囲なアマモの種子と栄養株の分布の関係を調査した。広範囲な分布に関しても種子との相関が認められ、あらためて種子の重要性が浮き彫りにされ、関係知見集積に寄与した。
<u>クロダイの生態研究及び漁場造成に関する研究</u>				
11 クロダイの相対成長について	単著	昭58.3	南西海区ブロック内海漁業研究会報告 第15回	13~18頁 種々の調査に対して、魚類の相対成長互換式が必要になることが多いため、各種の魚類についての相対成長の知見が求められる。数地区のクロダイについて体長、尾叉長、全長、体重の関係式を求めて検討し、また他の

12 クロダイ幼稚魚の食性について	共著	昭59.3	南西海区ブロック内海漁業研究会報告 第16回	文献データとも比較検討し、関係知見集積に寄与し、以後の試験の基礎となった。 福田富男、土屋豊 79~88頁 担当部分 調査、解析、記述全般 クロダイの資源量増大に際して減耗の激しい幼稚魚期の保護育成が望ましく、その食性に関する知見が求められている。クロダイ幼稚魚は小型の甲殻類を主体に多毛類なども摂餌し、マダイと類似した食性を示すことを明らかにし関係知見集積に寄与、以後の試験の基礎となった。
13 網魚礁へ集まる幼稚魚について	共著	昭49.3	栽培漁業技術開発研究 第3巻 第1号	福田富男、篠原基之、寺島朴 113~121頁 担当部分 調査、解析、記述全般 ノリ養殖漁業に用いられた古ノリ網の有効活用及び有用な人工海藻の開発が望まれている。古ノリ網を利用した人工海藻を開発し、その有効性と実用化の目処を得、その後広範囲に造成して漁業生産に寄与する基礎を築いた。
14 牛窓地区における柵網漁獲量の年変動	単著	昭54.3	内海漁業研究会報告 昭和53年度	31~46頁 保護水面設定に伴いその効果調査が求められた。選定した柵網の漁獲量、魚種組成の比較、年変動について検討し、保護水面の効果を確認され、周囲のアマモ場、各種魚礁設置などが影響していることを明らかにした。
15 魚礁の洗堀調査に関する一方法	単著	昭59.3	南西海区ブロック会議魚礁研究会報告 第4回	17~23頁 魚礁の洗堀、沈下、埋没に関する調査について従来から室内実験を除き数値化することは困難であり、有効な観測方法の開発が望まれる。魚礁周辺にアルミ杭を設置することで周囲の地盤高が把握可能となり魚礁の動向がかなり正確に把握可能となった。これにより以後の同種の調査に効力を発揮し多大の貢献をした。
上記の他、岡山県水産試験場業事業報告書、岡山県水産試験場報告を中心に73編				

著書、学術論文等の 名称	単著、 共著 の別	発行又は発 表の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
(その他) 雑誌連載 1 釣り師の危機管 理 危険回避から応急 手当まで	単著	平 17.1~ 現在に至る	ミリオンエコー出版 株式会社 月刊釣り情報	各号裏三面对 1頁 釣りの現場で起る種々の危険から身を守るた め、その回避や応急処置などを解説する。隔 月で動物、その他危険物の解説を実施し一 般読者の意識啓蒙に貢献している。
雑誌掲載 2 そこが知りたい探 偵団 釣魚の寄生虫 で人間に有害なもの は？」	単著	平 11.8	同誌	174~ 176頁 釣魚の寄生虫についてアニサキス、サナダ 虫、有棘顎口虫、横川吸虫他を解説し、人 体に対する影響なども解説して一般読者の 意識啓蒙に貢献した。
3 そこが知りたい探 偵団 「スにも寄生 虫がいる？」	単著	平 16.7	同誌	66~ 67頁 釣魚の夏期における寄生虫について解説 し、吸葉条虫属幼虫、四吻目条虫、線虫類、 吸虫類、鉤頭虫類などの寄生状態、人体に 対する影響などを述べた。また、アユの横川 吸虫について詳細を説明し、一般読者の意 識啓蒙に貢献した。
4 魚のゆりかごアマ モ	単著	平 14.3	社団法人瀬戸内海 環境保全協会発行 瀬戸内海、NO. 2 9	63頁 アマモの形態、生態、藻場の現状と効用、最 新のアマモ場造成技術などについて概説 し、関係読者の意識啓蒙に貢献した。
学会発表 (口頭)				
5 アマモ場造成に 関する研究				
天然モ場における アマモの季節的消長 - 垂直分布について -	発表 者	昭 56.9	日本生態学会中国 四国地区大会第 2 5回 (於 広島大 学)	天然アマモ場の垂直分布について、その季 節的消長を発表した。周年濃密にアマモが 分布している場所と季節的消長を示す場所 が存在し、種子が大きな役割を果たしているこ とを明らかにした。
アマモ種子の分布 と成体の繁茂状況と の関係について	発表 者	昭 57.9	日本水産学会秋季 大会昭和 57年度 (於 広島大学)	天然海域におけるアマモ種子の分布と成体 の繁茂状態について調査し、アマモ場の成 因として種子が重要な役割を果たしているこ とを発表した。
天然におけるアマ モの生育状況と環境 条件について 1 一 般的環境について	発表 者	昭 59.4	日本水産学会春季 大会昭和 59年度 (於 日本大学)	天然アマモ場の水温、塩分、照度、潮流、底 泥中のCOD、硫化物などとアマモの分布状 態について発表した。
天然におけるアマ モの生育状況と環境 条件について 2 粒 度組成について	発表 者	昭 59.4	同大会	天然アマモ場で周年アマモが濃密に分布し ている場所と季節的消長を示す場所につい て、底質の粒度組成を求め中央粒径による 範囲を決定し、報告した。

アマモ場造成における播種と敷砂の効果について	発表者	昭60.9	日本水産学会秋季大会昭和60年度(於 鹿児島大学)	アマモ場造成技術の実用化を目指し、播種と敷砂を実施しアマモ場の人工造成を試みた。結果は良好で2500㎡のアマモ場が得られたので発表し全国的に認められた。
岡山県下2水域で採集したアマモ種子の発芽率について	発表者	昭61.9	日本水産学会秋季大会昭和61年度(於 高知大学)	岡山県下で約20km離れた場所から採集したアマモ種子の発芽率を検討した結果有意の差が認められ、地区に応じたアマモ場造成技術の開発が必要なことを発表した。
アマモ種子の播種密度と発芽率について	発表者	昭61.9	日本水産学会秋季大会昭和61年度(於 高知大学)	播種によるアマモ場造成を実施する際、アマモ種子の有効利用を図るため、播種密度と発芽率について実験し、密度が高いほど発芽した実生の本数は多いが発芽率が低下することを明らかにし発表した。
走査型電子顕微鏡観察によるアマモ種子発芽時の外部形態について	発表者	平8.10	日本水産学会秋季大会平成8年度(於 九州大学)	播種によるアマモ場造成技術の基礎的知見を得る為種子の発芽時の形態を電子顕微鏡で微細に観察し初期の幼芽鞘などの構造と機能を報告した。
アマモ種子の播種深度と葉体の生長開始について	発表者	平8.10	同大会	播種によるアマモ場造成技術の基礎的知見を得る為種子の播種深度と子葉の生長開始点の関係について実験し、約30mmが最適播種深度であることを明らかにし発表した。
天然海底におけるアマモ種子の埋没機構	発表者	平9.9	日本水産学会秋季大会平成9年度(於 広島大学)	アマモ種子は底泥に埋没しない限り発芽しないことは別途明らかにされたが、天然海域でアマモ種子がどのような機構で海底泥に埋没するか実験によって明らかにし発表した。
比重選別法によるアマモ種子の良否判別について	発表者	平9.9	同大会	漁業者など基礎知識に乏しい人物でも簡単に種子の良否が選別できる方法を開発するために実験し、飽和塩水による比重選別が有効であることを明らかにし発表した。
その他、共同発表者も含め3編				
6 アニサキスに関する研究				
Anisakidae 幼線虫の体表横縞による種類の同定について	発表者	昭61.10	日本寄生虫学会西日本支部大会第42回(於 兵庫医科大学)	アニサキス症の患者から抽出された虫体の極小片から種類を同定する方法を開発する目的で、虫体の横縞間隔を測定し、応用可能な方法を明らかにし発表した。

人工胃液中で培養したアニサキス幼虫の胃、腸及び排泄器官の微細構造の変化	発表者	昭 63.4	日本寄生虫学会大会第57回(於名古屋市立大学)	人工胃液中で培養した、アニサキス幼虫の諸器官の微細構造の変化から、Excretory organ が単なる排泄器官ではなく、宿主の胃壁などに穿孔する際に必要な物質を生産し Excretory pore から排泄することを示唆した。
7 児島地先水域におけるクロダイ当才魚の食性について	発表者	昭 54.11	日本水産学会中国四国支部大会昭和54年度(於広島大学)	クロダイ当才魚の生態調査の一環として、胃内容物調査を実施した。撓脚類を主体に摂餌し、成長に応じて多毛類、小型甲殻類なども摂餌され多様になって行くことを明らかにし発表した。
8 岡山県下におけるアマゴの相対成長について	発表者	平 7.9	日本水産学会秋季大会平成7年度(於京都大学)	内水面養殖業にとって重要なアマゴのバイオテク技術開発に関する基礎知識として、相対成長式を求めた。飼育環境、親魚系統などで変異が大きく統一式は得られなかったが、目安となる係数を得て発表した。
9 漁業市場における動画記録を利用した魚体測定方法の開発研究	発表者	平 15.10	日本水産学会中国四国支部大会平成15年度(於サンビーチ岡山)	資源管理に必要な魚類の体長組成を得る為に、漁業市場のせり台の動画記録を連続撮影し、その解析からデータを得る方法を開発し、発表した。
10 日生地区におけるクマエビ放流効果の推定	発表者	平 16.9	日本水産学会中国四国・近畿両支部合同大会平成16年度(於メルパルク岡山)	岡山県東部地方で有用なクマエビの種苗放流効果を把握するため調査し、かなりの高率で資源に添加され漁業に多大の貢献をしていることを明らかにして発表した。